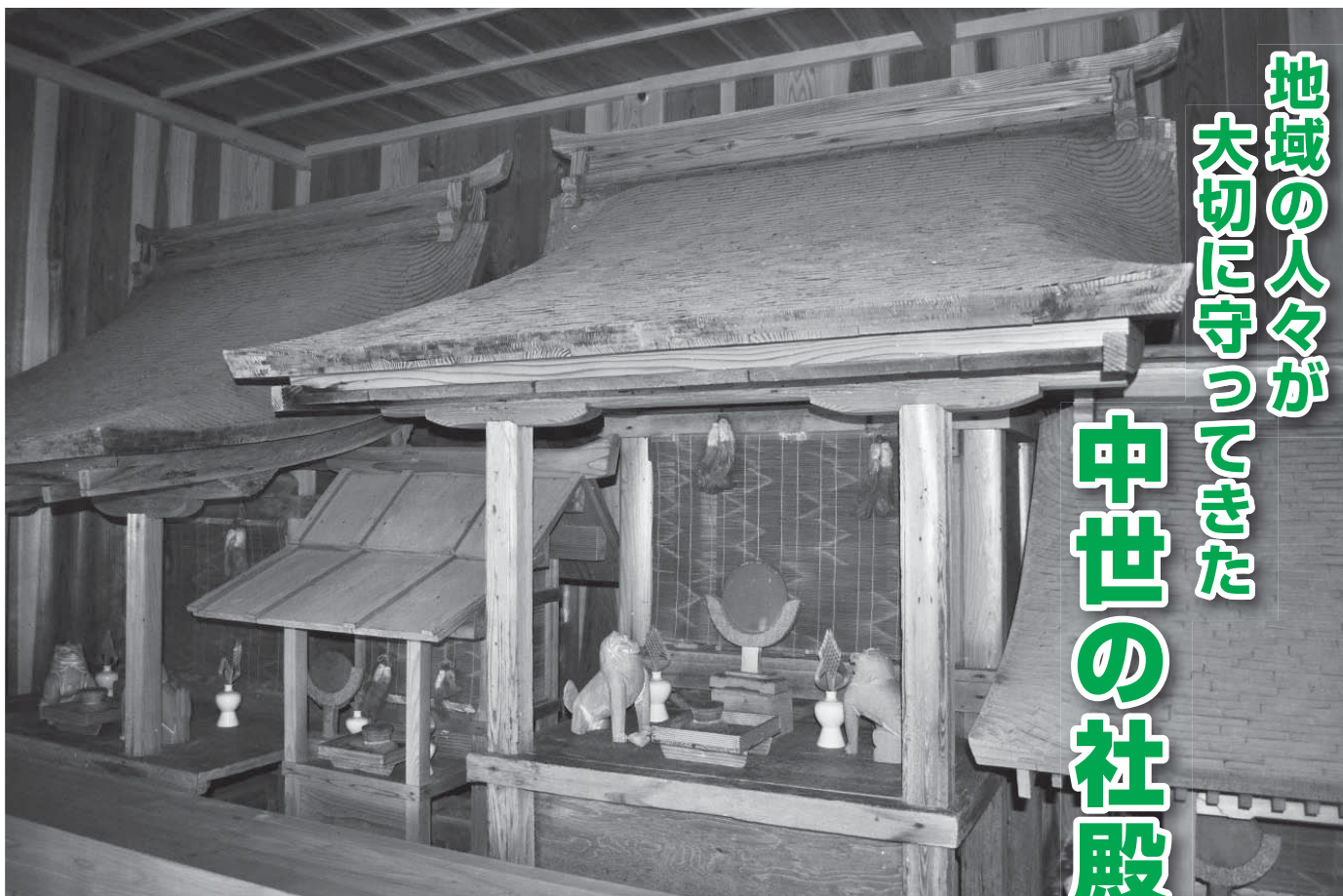


地域の人々が
大切に守ってきた
中世の社殿



▲思子淵神社：中央が本殿、左端は蔵王権現社

昨年、刊行された朽木村史の編さん過程の調査において、中世に建立された神社建築6棟が確認されました。

針畑川流域の小川の集落にある思子淵神社には、覆屋内に5棟の小社殿が並べて納められています。このうち中央の本殿と左端の蔵王権現社（写真）、右端の熊野社が中世の建築で、蔵王権現社からは、応安4年（1371）建立を示す板札が発見され、建立年代が確定するとともに、他の2棟も様式・技法の上からは大きな時期差は感じられずほぼ同時期（14世紀後期）の建立と判断されました。県内でも屈指の古い社殿であり、屋根と熊野社の庇柱を除いてほぼすべて建立当初の材料が残されている、極めて貴重な建物であるということで3棟が平成23年3月に滋賀県指定有形文化財として指定されました。

針畑川の上流、中牧の集落にある大宮神社は、規模の大きな三間社流造の本殿とその左右に常神社・八幡社があります。本殿は、江戸時代に幾度かの修理で部材が取り替えられています。中世に建てられた古い部材の表面を削り直すこと、古い部材の模様などを忠実に模倣すること、解体せず部材の取替を行うこと、この3つの技法を駆使して巧

編集者のつぶやき

3月11日にマグニチュード9の超巨大地震が東日本を襲いました。地震を発端に、大津波が町を飲み込み、原発が爆発するなど、未曾有の大惨事となっています。テレビに映し出される被災地の悲惨な状況にいたたまれない思いになります。高島市では、被災者の方々を少しでも支援するため義援金の募金箱を窓口を設置しています。皆様の温かいご支援・ご協力をお願いします。（広報担当S）

妙な改造が繰り返されています。これらは朽木の多くの神社建築に見られる特徴で、この地域の建築文化の継承のあり方をよく示しています。なによりも、組物から上はおおむね中世の部材をよく遺存しているという貴重な価値を有する建物です。八幡社・常神社は、覆屋の中にあり、ほぼ同形式の一間社流造で、彫刻や絵様も一切ない極めて簡素な建物ですが中世の技法で作られています。いずれも室町時代後期（16世紀前期）のもので朽木谷の伝統に従って、一切建て替えてしまうことはせず、古い部材を極力残し、古い技法や意匠を踏襲することで、建物を継承してきたことが知られる貴重な建物として3棟が平成22年6月に高島市指定有形文化財として指定されています。（文化財課）

発行／高島市 編集／政策部企画広報課
〒160-0002 滋賀県高島市新旭町北畑のの森地

☎0740(24)80000(代)
http://www.city.takashima.shiga.jp
✉info@city.takashima.shiga.jp

拡大版
ごみ減量
大作戦
タウン
トレックス
子育て
安心安全
消費生活・
市長の手帳
みんな
575
健康生活
元気生活
国保年金
体育指導
委員通信
教育委員会
びよっぴん
たより
暮らしの
情報
ともしび
図書館
窓口たより
歴史散歩